

(特非) ラムサール・ネットワーク日本

ラムサール条約・生物多様性条約を通した、水田決議に基づく生物多様性向上のための実践活動の地球規模の推進

イベントの 延べ参加者数	200 人
田んぼ 10 年プロジェクト参加団体(個人) 数	146
活動の全体目標 に対する達成度	30%



ラムサール COP12 サイドイベントの様子

◆成果と工夫したポイント

- 成果** 田んぼ 10 年プロジェクト参加数は、開始当初の 81 団体が 3 月末時点で 146 団体に増加した。とりわけ地方の農家の参加はプログラム推進の強力なサポートとなった。
- 工夫** 田んぼ 10 年プロジェクトへの参加申し込み用紙は、対象者別に簡易的に改修したものを作成した。

課 題

水田の生物多様性向上は、ラムサール条約と生物多様性条約の決議で決定したにも関わらず、日本・韓国以外の条約批准国では、あまり取り組まれていないし、状況も共有されていない。

活動内容

「田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト」を作り、参加者を募る活動を展開してきた。本年度は滋賀・大分・東京で集会を開催し、現場で活躍する方、行政、企業、消費者との交流会や取組みの発表をし、146 団体の参加を得た。参加者には、会報「田んぼだより」を配布し、活動情報共有を図る工夫をした。また、海外では、ラムサール条約会議で、展示、サイドイベントを開催し、日本の田んぼの取組みやアフリカ・南米の水田状況の情報交換をした。



田んぼ 10 年プロジェクト琵琶湖集会

今後の課題

世界の田んぼの生物多様性向上ネットワークを構築する際、南米の大規模水田耕作の状況が、アジアの水田耕作と大きく乖離していることが判明し、相互の状況把握と理解に時間を要することが想定される。